

# 一般質問から

※議員名の上の番号は議席番号です。

## 平成23年度の予算編成について

**Q** 平成21年度の決算状況を考慮し、平成23年度予算をどのように編成するのかについて伺います。

**22番 柳澤 功一**

市民の要望などにも対応した予算措置も必要となります。

**A** 平成21年度一般会計決算では、実質収支額は前年度より増加し、財政指標でも数値の一部は改善したものの、依然として高い状況です。平成23年度の予算編成につきましては、平成22年度に引き続き、歳入では景気の低迷等により市税収入の落ち込みなどが見込まれる一方、歳出では生活保護費の大幅な増加などが見込まれるなど非常に厳しい状況であります。

## 自治体シンクタンクの設立について

**Q** 地方分権時代が到来し、今後はさらに自治体としての政策立案能力が問われる時代となっております。

**3番 朝田 和宏**

本市でも、今後直面する様々な行政課題を解決するために、ここ数年増加している自治体シンクタンクの設立を考える時期ではないかと思いますが、市の考えを伺います。

**A** 自治体シンクタンクは、地方分権に対応できる基礎体力づくりの手段として、政策形成力の確立・向上をめざすとともに、調査研究、課題解決のための提言をすることが主な目的となっております。ご提案の自治体シンクタンクの設置につきましては、職員の意識改革を図る観点からも有効な取り組みの一つであると存じますが、本市としては、現時点での取り組みを更に充実させながら、より質の高い行政運営に努めてまいります。

## 農林水産省補正予算施策の活用について

**Q** 例えば、「食を核とした地域活性化支援事業(補助率10/10)」のように活用すべき国の補助事業がある。この事業の場合、応募可能な事業実施主体は民間事業者、農林漁業者・商工業者の組織する団体、地域の協議会・研究会等である。この事業に八潮市内からの応募実績はあったのか。また、今後、数多く存在する国・県の施策について、市が情報を把握・熟知する必要がある。市民が施策事業を活用できるよう啓発活動も含め、施策認定までの支援を行うべきだと考える。ご見解を伺いたい。

**2番 福野 未知留**

**A** 財源確保が厳しいなか、市が単独では実施困難な事業について、国や県の支援を利用できるような施策は八潮市にとって大変有効であると考えられる。

また、実績はないが、今後、商工会等と連携を図りながら、国・県の施策について調査研究し、地域の関係する団体に積極的にPRし、施策活用が図られるよう働きかけ、地域経済の活性化に寄与してまいりたいと考えている。

## 高齢者の孤立化対策について

**Q** 今年(平成22年)夏、全国で次々に発覚した高齢者の所在不明問題は、長寿社会の裏に潜む高齢者の孤立化問題も浮かび上がらせたのではないかと。高齢者の孤立化対策について伺う。

**11番 岡部 一正**

民生委員をはじめとする地域の皆様とも問題意識を共有し、地域のネットワークの構築に向けた検討が必要と考える。

**A** 高齢者の所在不明問題については、社会的背景や地域社会のあり方、また、縦割り行政の弊害など様々な要因が挙げられているが、高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した生活が送れるよう、関係各課による連携体制の推進はもとより、社会福祉協議会や町会・自治会

## 八潮市の教育行政について

**Q** 全国的に問題となっておりまして本市の現状を伺います。

**7番 大山 安司**

**A** 「いじめは、どの学校にも、どの学級にも、どの子にも起こりうる」との認識のもと、日頃から実態把握に努めております。

教育委員会では、いじめを「うまない」「見逃さない」「許さない」教育を推進しております。いじめ問題は、学校、教育委員会と家庭、関係機関が連携しながら対処していくことが必要と考えております。

## 災害救助時の緊急キットについて

**Q** 救急時に必要な情報(持病、かかりつけ病院、常備薬、緊急連絡先など)を筒状の容器に入れて冷蔵庫などに保管する緊急キットの取り組みと高齢者、障がい者への対応について伺います。

**13番 小倉 順子**

に救急出動を所管する消防署との協力体制は重要となることから、関係する部署との連携を図りながら実施に向け検討していきたいと考えております。

**A** 高齢者や障がい者など、日常生活において不安のある方にとって、この「緊急キット」は緊急時の迅速な対応手段として大変に有効であると考えます。

対応については、民生委員や地域包括支援センターなどの関係機関との連携の在り方や、特

